

## 第3回 IFAF アジア フラグフットボール クラブチャンピオンシップ 大会レポート

【主催】国際アメリカンフットボール連盟アジア委員会 (IFAF ASIA)

【開催日程】2016年9月24日～25日

【開催都市】マニラ (フィリピン共和国)

【出場国】韓国、ベトナム、インド、フィリピン、日本

【大会結果】優勝：エリート (フィリピン)

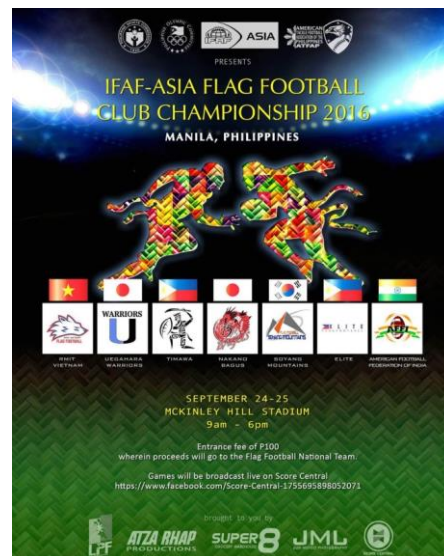
準優勝：上ヶ原ウォーリアーズ (日本)

3位：中野バグース (日本)

【個人表彰】大会 MVP フェルナンデス (エリート/フィリピン)

オフェンス MVP 徳永昌益 (上ヶ原ウォーリアーズ)

ディフェンス MVP 田邊大翔 (中野バグース)



9月24～25日、フィリピン共和国の首都マニラにおいて、第3回 I F A F アジアフラッグフットボールクラブチャンピオンシップが開催されました (5か国7チーム参加)。日本からは上ヶ原ウォーリアーズ、中野バグースの関西、関東の強豪チームが参加、それぞれ銀メダル、銅メダルと健闘、大会を盛り上げました。

### 【予選リーグ】

上ヶ原ウォーリアーズはQB徳永がWR尾崎、下川とスピードのあるレシーバー陣にパスを投げ分け、圧倒的なオフェンスで予選は4連勝でスタート。雨の中で行われた強豪エリート (フィリピン) との試合も26-25と接戦をものにした。予選最終戦となったティマワ (フィリピン) との試合は連戦の疲労もあって主力を温存したこともあり敗戦も4勝1敗、予選2位で決勝トーナメントに出場を決めた。



好キャッチ連発のWR下川



鋭いランアフターキャッチを見せたWR尾崎

中野バグースは、初戦前半こそやや堅さが見られたが、その後はCB田邊、SF種井らDF陣がインターセプトを連発。オフェンスもQB進導、そして強力レシーバー陣が徐々に力を発揮。予選5試合を全勝し堂々予選1位で決勝トーナメントへの出場を決め、日本選手権出場チームとしての実力を見せた。



オフェンス最年少ながらチームを指揮したQB進導

若いQBとWR陣（左から種井、進導、六川、吉松、小瀬）

### 【準決勝】

準決勝は中野バグース（予選1位）対エリート（フィリピン／予選4位）。上ヶ原ウォーリアーズ（予選2位）対ティマワ（フィリピン／予選3位）の対戦となった。

中野バグースの準決勝の相手は日本の2チームと予選で激戦を繰り広げたエリート。準決勝でも白熱とした試合となった。前半中野バグースは攻守ともに粘りを見せリードして折り返したが、後半はアメリカ出身選手が主体で体格で上回るエリートが力を見せ始め、最後はオフェンス、ディフェンス両面で活躍していたフェルナンデスのインターセプトで万事休す。19-31で敗戦した。



上ヶ原ウォーリアーズの相手はフィリピン代表選手を抱えるティマワ。予選では敗戦したものの、主力メンバーがフル出場となった準決勝では前半から圧倒。41-25と危なげなく勝利し決勝進出を決めた。

## 【決 勝】

決勝は上ヶ原ウォーリアーズとエリートとの対戦。予選同様雨の中での戦いとなった。ここでもエリートが体格を生かしたプレーに加え、好キャッチを連発と技術も見せた。対する上ヶ原ウォーリアーズも持ち前のスピードを生かしたランアフターキャッチで応戦するも、最後は24-36で敗戦、銀メダルとなった。



見事決勝進出を決めた上ヶ原ウォーリアーズ



攻守に活躍したフェルナンデス (左)

3位決定戦では中野バグースがティマワのトリックプレーに一瞬惑わされたものの最後は実力差が出て勝利、銅メダル獲得となった。



## 【個人表彰】

大会MVPは攻守に活躍を見せたフェルナンデス (エリート)、オフェンスMVPはレシーバー陣をたくみに操った徳永 (上ヶ原ウォーリアーズ)、ディフェンスMVPは要所でインターセプトを見せた田邊 (中野バグース) が選ばれた。



オフェンス MVP 徳永



ディフェンス MVP 田邊



好成績で大会を終えた両チーム